

六田晴洋の

私たちの
ご近所さんトガリ
ネズミ
ラウアー

VOL. 39 それぞれの場所で生きる

鳥取県への遠征から戻ると、色鮮やかな恋問海岸が印象的でした。出発前は茶色が目立っていた草原は、わずか一ヶ月ちよつとの間で一面瑞々しい緑に変わり、ハマナスのピンク色やエゾスカシユリのオレンジ色が散りばめられていました。近くで見ると、ハマフウロなど多種多様な植物も花を咲かせており、今年も白糠の夏が始まったことを実感しました。

豊かな草原の建築者

海岸に生える多くの植物は草ですが、ハマナスは恋問海岸では珍しい樹木です。強い風を受けても折れないよう、背が低くなっているのが海岸ならではの姿です。

実はこのハマナス、重要な役割を担っています。草は根が柔らかく、強風などによる砂の移

動でちぎれてしまうことがあります。しかし木であるハマナスの根は年輪を重ね、太く硬く地下に張り巡らされています。そうして土台を安定させ、他の植物や動物が暮らせる環境を築いているのです。

過酷な環境を特等席に変える

私が特に好きな植物はハマニ

ガナです。そのすごさは、波打ち際に最も近い、草原の最前線で育つところにあります。波や砂を被る過酷な環境ゆえに他の植物はほとんど生えませんが、ハマニガナは海水に濡れても枯れない特殊な葉を持っています。さらに、砂に埋もれてもすぐに地上に茎を伸ばし、光合成を再開する能力も備えています。移動できない植物にとって、

根を張る場所は生き方を左右します。安定した草原の中心部は一見暮らしやすそうですが、太陽の光を巡る熾烈な競争を強いられます。

しかしハマニガナの戦略は発想の転換でした。「波を被るなら枯れない装備を持てばいい。砂に埋まったらまた這い上がればいい」。おかげで過酷なはずの最前線はハマニガナの特等席。そこにかわいらしい花を咲かせるハマニガナ、とても良くないですか？ちよつと感情移入しすぎでしょうか。



恋問海岸に育つ木 ハマナス



最前線に咲くハマニガナ

PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。
2021年に白糠町へ移住。
大学卒業後、フリーランスの
カメラマンやディレクターとして
野生動物や自然風景を撮影している。
<https://rokutaharuhiro.com>

